

介護施設のICT化 第3弾

～多職種による情報共有と連携～

施設事業所名	特別養護老人ホーム つばさ
研究発表者	両田帆夏（介護職） 阿部祐菜（生活相談員）
共同研究機関	生産性向上推進委員会

1



2

ICT活用で

変わった

介護現場

導入から2年半で築きあげてきた軌跡

ICTのメリットやデメリット

多職種との連携方法



3

委員会の役割

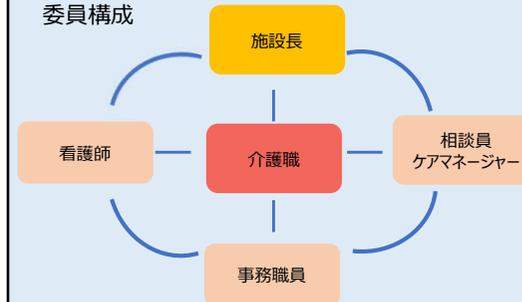
生産性向上推進委員会

インカム委員会（令和5年）

ICT生産性向上委員会（令和6年）

POINT

委員構成



・多職種を含めた委員構成

・現場職員以外の客観的な意見も取り入れる

・IT機器は機械的な性質上、その分野に詳しい職員にも加わってもらう

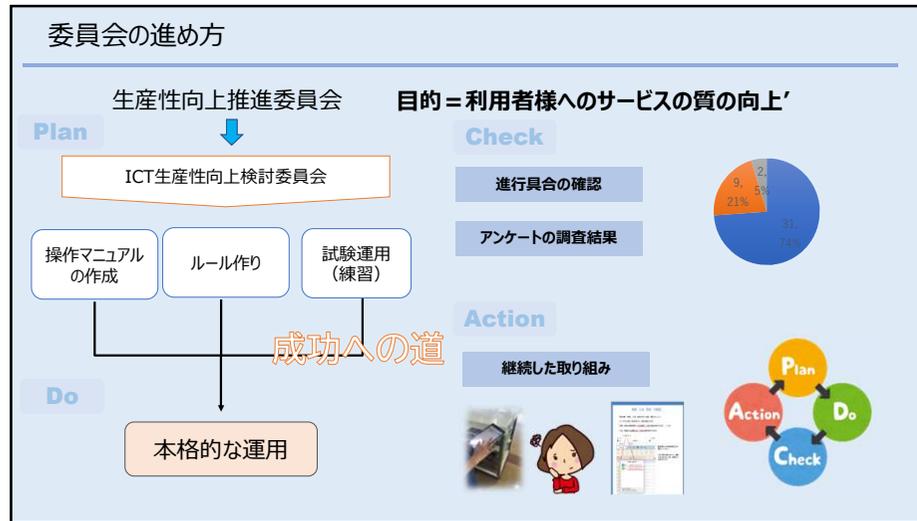
検討事項

・運用ルール、マニュアルの作成

・経過報告と評価を行う

・アンケート調査

4



5

インカム RULES

インカムを装着したら通話の確認とグループに入ることを知らせる。

誰かがインカムで話したら必ず返答をする
※利用者様対応中は除く

マイクと口は10cm程度離して話す

入浴介助中は使用しない。(故障防止のため)

インカムを外す際は同じグループに知らせる

休憩中(業務時間外)はインカムを外す

POINT

「お疲れ様です。〇〇です。これからグループに入ります」

「了解です」「私が介助に入ります」「今201号にいます」

近すぎると音声割れてしまい聞き取りにくい

脱衣室に1台置き、必要時連絡する

「〇〇です。インカムを外します」

6

電カル RULES

電子機器に苦手な職員もいるので、困った時はお互いに教え合う。

常に目的を明確にする (目的を見失わない)

ポジティブな考え方で捉える。

業務以外での使用は原則禁止。

POINT

操作に慣れるまで個人差がある。操作に悩んでいる職員には改めて説明する時間を作る。置いてけぼりにならないようにする。

目的は利用者様へのサービスの質の向上。いつの間にか方法が目的化しないように。

「これまでのやり方」が変わる抵抗感からネガティブな意見も。メリットを丁寧に説明することで心理的なハードルを下げる。

利用者様の支援以外のことには使わない。あくまで利用者様のサービスのため。

7

インカムの導入 令和5年2月～

長期利用者50床
短期利用者20床

広い館内での情報伝達・共有をインカムで解消

「この施設は通話専用で、通話専用機を設置してあります。ご利用の際は、必ずご利用ください。」

「ケースコールからインカムが通話しているため、すぐに繋がります。」

8

導入後のアンケート調査

アンケートの調査結果

(令和5年7月実施の調査)

インカムを運用してから職員同士の情報共有が上手くいきましたか？



インカムを運用してから利用者様を待たせてしまうことが減りましたか？



9

特養で電子カルテ（ケアパレット）の導入 令和6年2月～現在



10

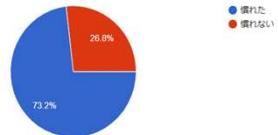
導入後のアンケート調査

アンケートの調査結果

(令和6年7月実施の調査)

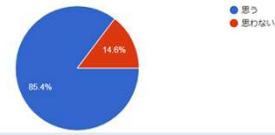
ケアパレットを導入後、試験運用も含めて5ヶ月が経ちましたが、操作は慣れましたか？

41件の回答



ケアパレットで複数の利用者様の特記事項をすぐに確認できるのは便利だと思いますか？

41件の回答



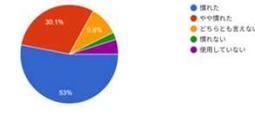
11

導入後のアンケート調査

(令和7年7月実施の調査)

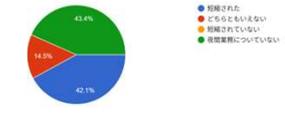
ケアパレットについて、導入当初と比較し、操作は慣れましたか？

83件の回答



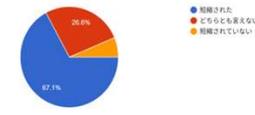
従来の紙のカルテと比較し、夜間の記録時間は短縮されたと思いますか？

76件の回答

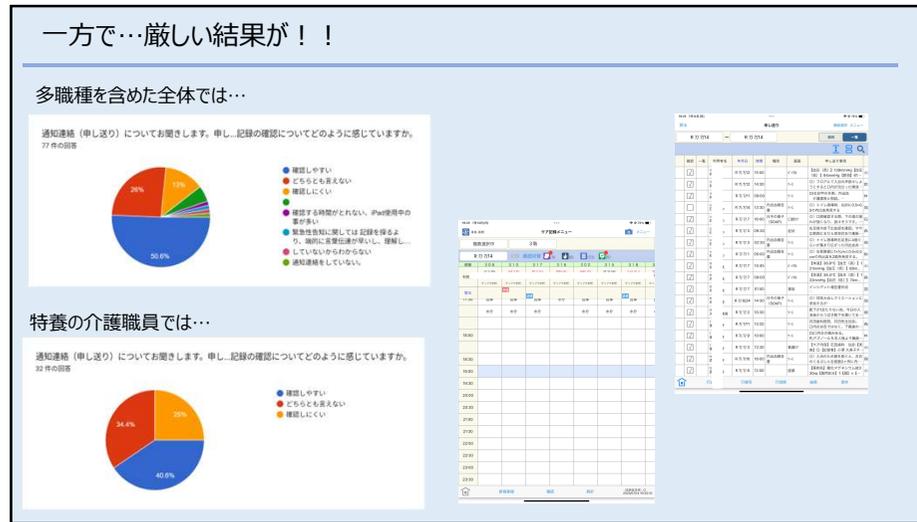


従来の紙のカルテと比較し、日中の記録時間は短縮されたと思いますか？

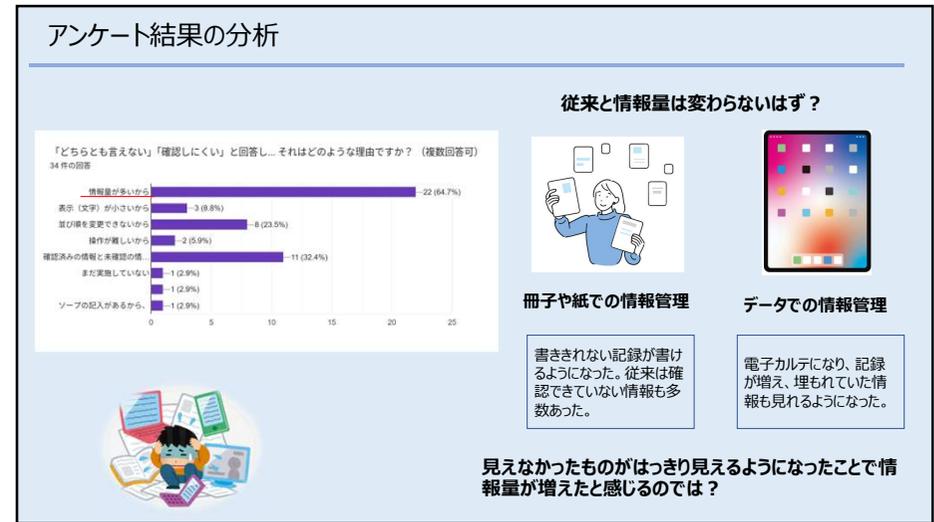
79件の回答



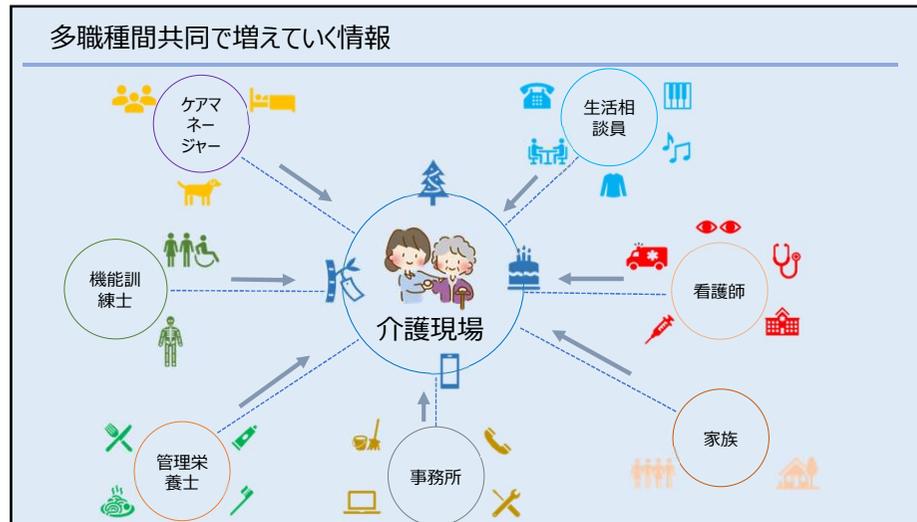
12



13



14



15



16

ケアパレット「申し送り」情報、どう整理する？



介護職員・多職種からの記録において、「申し送りの必要性のある情報は全て「申し送り」に集約されていた。

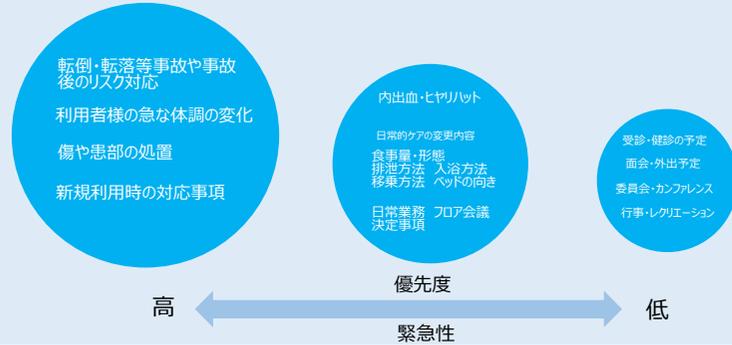
この「申し送り」のタスクの中には非常に多くの情報が集まり、職員の頭を悩ませていた。

新着順に並び替えることで、少しでも情報整理できればと期待したが、残念ながら並び替えの機能がなかった。

17

情報整理の必要性

介護現場の職員は多くの情報を管理することになります。全ての情報をしっかり把握しなければならないという使命感から、情報のオーバーロード（情報過多）がストレスとなり、かえって重要な情報が確認できていなかったり、ケアの統一性を欠く結果になるリスクがあります。優先順位を定めるなど、情報を整理することで、職員の心理的負担を減らすことも必要です。



18

タスクやツールの有効活用「カレンダーアプリ」



ウィジェットを大きくしてホーム画面で予定を確認

定期受診・面会予定・行事・カンファレンス
外出・委員会・理美容・レクリエーション

19

タスクやツールの有効活用「ファイルアプリ」



プロ会議決定事項

新規利用者事前情報

身体拘束・虐待防止委員会会議録

レクリエーション・行事起案書

議事録

20

情報の整理 「申し送り」の種別化

介護職員や多職種が使いやすい種別を作り、記録の際には必ず種別を選択するようルール化した。

種別が多すぎると選択に迷うことも考え、数は限定した。

種別から申し送り内容を絞り込むことで、自分が確認したい項目がわかりやすく表示されるようにした。

21

ショートステイ利用時、急な家族から連絡は「インカム」で

利用人数が多い日は送迎が忙しく現場での情報伝達が難しい。

できるだけ早く現場に情報を届けたい！

送迎時に家族から伝えられる急な連絡事項

- ・薬の変更
- ・急な受診の予定
- ・利用中の家族の連絡先
- ・自宅での転倒事故 など

22

情報の整理 重要事項は「指示」で（今後の目標）

緊急性の高い情報や指示事項は「指示」に記録
「体調変化・バイタル異常」「急変」「事故報告・対応」「傷・患部の処置」など

優先度によって「申し送り」「指示」を使い分けることで、対応する職員が情報の優先度をつけやすくすること。

23

取り組み後のアンケート

多職種を含めたアンケート結果

従来の紙と比べて、電子カルテ「ケアレット」や「ほのほNEXT」は、記録の確認がしやすくなりましたか？
(ケアレットについては、5月以降表示できる情報量を2週間分から4週間分に変更。それも踏まえて回答ください)

介護職員だけのアンケート結果

通知連絡(申し送り)についてお聞きします。種別を分けたことで申し送りの記録の確認はしやすくなりましたか？
40件の回答

確認しやすい	どちらとも言えない	確認しにくい
55.7%	29.3%	15.0%

確認しやすい	どちらとも言えない	確認しにくい
52.5%	27.0%	20.5%

24

今後の課題

情報のオーバード問題は今後も続いてく可能性がある。情報とどう上手く付き合っていくか。

特養以外の事業所でも電子カルテの導入を進めている。施設全体で協力し、推進していくか。

介護現場のICT化は今後も進んでいく。自分たちに必要な機器やツールを正しく選択できるか。

本来の目的である「利用者様へのサービスの質の向上」にどのように反映させていくか。

25

まとめ

「人材不足」が叫ばれる介護業界、ICTの取り組みは今後も注目が集まり、標準サービス化されることが予測されています。

私たち2年半の取り組みは、徐々に利用者様のサービスにも結び付いています。これは、長期的な視野を持って、チームで取り組んできたことによる成果だと考えています。

ICT活用までの道のりには上手くいかなかったことや、失敗例も数多くありました。これから導入を検討される事業所の皆様には、活用の中でメリットもデメリットもあることを知ってもらいたいと思います。そして、「デメリット」は課題として捉え、利用者様やご家族に良いサービスを提供できることを目的として導入を検討していただきたいと思います。

まだまだ課題の多い研究ですが、同じ人員でもより多く、質の高い介護サービスを提供できるよう研究を重ねていきたいと思っています。

すべての利用者様、ご家族に

『海わたる爽やかな風と優しさを』

26



27